

水産研究部企画調整事業

景平真明・田村勇司

事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」に係る業務を行った。

1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、栽培資源チーム、養殖環境チーム及び浅海・内水面グループの浅海チーム、内水面チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図る。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等を企画、立案する。

2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報拠点としての機能の充実に努める。

3. 研修事業

国内外からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図る。また、研究員の資質向上を目的に研修会を開催する。

事業の方法

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズに迅速、的確に対応し、効率的な調査・研究活動を推進することにより、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき会議を運営した。会議は原則として月 1 回の開催を計画した。また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画指導担当者会議（メンバー：企画指導担当総括）及びセンター所属長会議（メンバー：部長、グループ長）に参加した。

2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究・開発を推進するため、水産研究部（上浦）と浅海・内水面グループの研究予算等の調整と運用を行った。

3) 大分県水産研究推進検討委員会（所内評価）

研究課題の推進に際し、必要な助言、評価及び検討を行うことにより、研究レベルの向上と効率化を図るため、設置要綱に基づき委員会を運営した。

4) 大分県農林水産部試験研究外部評価委員会 専門部会

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究推進本部設置要綱並びに試験研究評価実施要領に基づき、学識経験者等の外部委員から構成される水産研究部外部評価委員会専門部会を開催した。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催した。さらに、一般消費者を対象に、豊かで安全・安心な食を提供するための研究機関の取り組みを紹介することを目的にセンター本部が開催した研究紹介で水産関係の試験研究の取り組みを発表した。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、平成 23 年度事業について、水産研究部（上浦）と浅海・内水面グループ分をまとめた事業報告書を作成し、ホームページで公開した。

b) 広報紙 AQUA-NEWS

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA-NEWS を編集、発行した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/15090/>）において、水温情報、漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

研究者と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

開かれた研究機関として機能することを目的として、視察、見学者への説明や案内等を行った。

また、必要に応じ、部門ごとの研修、国外からの現地視察や実習等にも対応した。

2) 研修

研究員の資質向上と研究機能の強化を目的に、今年度は全研究職員を対象に知的財産研修を開催した。

事業の結果

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

今年度は会議を8回開催し、各部所の行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

2) 研究予算調整

本部策定の予算編成方針及び水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の予算を取りまとめた。

3) 大分県水産研究推進検討委員会（所内評価）

2012年6月11日、6月13日に委員会による部・グループのヒアリングを開催し、評価、助言、指導を行った。

4) 大分県農林水産部試験研究外部評価委員会 専門部会

2012年6月22日に水産研究部外部評価委員会専門部会を開催し、新規1課題について技術的なアドバイスや意見を受け、昨年度評価を受けた2課題について、情報交換を行った（表1-1、表1-2）。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会等

2012年12月13日、14日に大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催し、水産研究部9課題、浅海・内水面グループ4課題の研究発表があった（表2）。

また、2013年2月15日に開催された農林水産研究指導センター研究紹介で養殖環境チーム木藪主任研究員が「～味よし、香りよし、見た目より～ブランドブリの真打ち「かぼすブリ」の実力」を発表し、かぼすブリの試食を行った。

B. 刊行物等

a) 事業報告書

水産研究部、浅海・内水面グループの平成23年度の事業報告を編集、作成し、ホームページで公開した。

b) 広報紙 AQUA-NEWS

本年度は、7月に第35号、1月に第36号を編集、発行し、県内外の関係機関に配布した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

2012年5月25日（水産研究部）、6月4日（浅海・内水面グループ）に連絡会議を開催した。

普及指導員から要望が出された事項については、各チーム・担当において対応した。

B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

2012年6月5日に北海部沿岸地域、6月4日に佐伯市沿岸地域、6月14日に豊前海沿岸地域、6月18日に東国東・別府湾沿岸地域を対象としてそれぞれ会議を開催した。

表3に会議で報告した研究情報を示す。

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

小学生の団体見学を中心に、多くの視察、見学及び現地実習等に対応した。

表4に視察受入実績を示す。

また、赤潮、魚病、水産加工等各担当ごとのテーマ別研修も実施した。

2) 研修

2012年11月13日に浅海・内水面グループ、11月14日に水産研究部で、弁理士の溝口督生氏を招いて、「公設試における特許 もっと理解して楽しい研究生活」というテーマで講演と意見交換会を行った。

表 1-1 大分県農林水産部試験研究（水産研究部）外部評価委員会名簿

所 属	役 職	氏 名	備 考
九州大学大学院農学研究院	教 授	松山 倫也	学識経験者
(独) 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所	業務推進部長	川崎 清	学識経験者
(独) 水産総合研究センター増養殖研究所 上浦庁舎 養殖技術部 健苗生産グループ	グループ長	加治 俊二	学識経験者

表 1-2 大分県農林水産部試験研究（水産研究部）外部評価委員会専門部に付託した研究課題

研究 課 題 名	担当チーム	研究期間
沿岸シラスの最適漁場探索支援ツールの開発	栽培資源チーム	H24 ～ H25 年度
豊予海峡周辺におけるマアジ・マサバの資源生態に関する研究 ～資源管理体制の構築に向けて～	栽培資源チーム	H24 ～ H26 年度
ヒラメの高水温耐性品種の作出（Ⅱ期）	栽培資源チーム	H24 ～ H26 年度
赤潮に強い養殖生産に向けた支援技術開発	養殖環境チーム	H24 ～ H26 年度
健全・高品質な養殖魚生産のための給餌手法の改良	養殖環境チーム	H24 ～ H26 年度
養殖ヒジキの品質向上と養殖用種苗供給技術の確立	浅海チーム	H24 ～ H26 年度
屋内高密度ドジョウ養殖技術の高度化	内水面チーム	H24 ～ H26 年度

表 2 大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会の発表課題

発 表 課 題 名	発 表 者
ヒラメのクドア食中毒対策	養殖環境チーム 主任研究員 木本 圭輔
屋内養殖ドジョウに給餌する配合飼料について	内水面チーム 主任研究員 内海 訓弘
養殖ヒラメの冷凍流通の可能性	養殖環境チーム 研究員 吉岡 左織
中津市小祝地先のカクレガニ科のアサリ寄生率 及び生理的影響について	浅海チーム 主任研究員 片野晋二郎
ヒジキの成熟調査と増殖試験	浅海チーム 主幹研究員 岩野 英樹
厳選した宇佐の豊幸がにの共同出荷試験の事例紹介	北部振興局 主 査 堀 敏宏
大分県はトラフグの放流適地か？	浅海チーム 主任研究員 畔地 和久
ナルトビエイ生態調査から見えてきた二枚貝増殖への一提案	浅海チーム 研究員 三代 和樹
タチウオの夜釣りが資源に与えるインパクト	栽培資源チーム 主任研究員 徳光 俊二
マアジ卵の水温別発生所要時間 および大分県沿岸域における産卵量の推定	栽培資源チーム 研究員 西山 雅人
豊後水道における春季のシラス漁場形成について	栽培資源チーム 研究員 行平 真也
イセエビの成熟度調査	栽培資源チーム 研究員 堀切 保志
2012 年夏季における <i>Karenia mikimotoi</i> 赤潮の 大発生と予察の検証	養殖環境チーム 主任研究員 宮村 和良
PCR 法による <i>Karenia mikimotoi</i> 高感度モニタリングの試み	養殖環境チーム 研究員 野田 誠

(注) 表は発表順である。連名発表は筆頭者のみ記載した。

表3 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績と報告した研究情報

開催日 (場所)	対象地域	研究情報・報告者
2012年6月4日 (佐伯総合庁舎)	佐伯市沿岸	「カワハギ種苗量産技術の現状」 栽培資源チーム 研究員 中里 礼大
		「大分県におけるヒラメのクドア食中毒対策」 養殖環境チーム 主任研究員 木本 圭輔
2012年6月5日 (臼杵総合庁舎)	北海部海域沿岸	「2011年タチウオ資源調査結果概要」 栽培資源チーム 主任研究員 徳光 俊二
		「豊後水道北部における赤潮監視と発生予報」 養殖環境チーム 研究員 野田 誠
2012年6月14日 (浅海・内水面グループ)	豊前海沿岸	「資源を持続的に利用するには？」 ～周防灘小型底曳き網漁業の現状とハモの資源管理」 浅海チーム 研究員 三代 和樹
		「アサリポンプ吸引試験について」 浅海チーム 主任研究員 片野晋二郎
		「建干し網はクルマエビの馴致放流に有効か？」 浅海チーム 主任研究員 畔地 和久
2012年6月18日 (くにさき総合文化センター)	東国東・別府湾沿岸	「稚ナマコ生息環境調査」 浅海チーム 主任研究員 片野晋二郎
		「昼と夜に獲れたタチウオの成熟度に差があるか」 浅海チーム 主任研究員 畔地 和久
		「ヒジキの生態調査と増殖試験」 浅海チーム 主幹研究員 岩野 英樹

表4 視察等受入実績

区分	水産研究部		浅海チーム		内水面チーム	
	件数	人数(人)	件数	人数(人)	件数	人数(人)
視察・見学	11	290	0	0	52	194
うち、国外※	1	18			0	0

※香港

(注) 文書等により依頼があったもので、概数である。